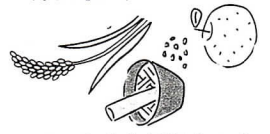




活性酸素

り、生のごま油の油剤化と比較すると、大きな善異が認められたのです。



完成した加工法

このように述べてくると、一直線にこれらの加工法にたどり着いたように思われるかも知れません。だが事実はそうではありません。あてもない、こうでもないと、試行錯誤の末に開発した加工法なのです。ひとつひとつ条件を変え実験しては結果を調べる、また条件を変えて実験しては結果を調べる、地道な営みの末に、治療薬SOD様作用食品は開発されたのです。

この加工法・油剤化が完成したことにより、予想もしなかったような優れた著しい臨床効果が得られるようになりました。十余年に及ぶ苦闘の成果でした。

「本物の医療、真の健康のための弛まぬ努力の結晶」

焙煎胡麻油で油剤化

遠赤外線焙煎、麴発酵で、高分子の抗酸化物質を細かく粉砕した後、最後に焙煎した胡麻から抽出したごま油で油剤化(油に浸す)します。このような加工を施したのは、体の中で、活性酸素、特に過酸化脂質が存在し悪さをしている場所に関係があります。これらが悪さをするのは、細胞の膜のところ。細胞膜には非常に油が多いです。遠赤外線焙煎と麴発酵を施したいくら優れた抗酸化力がある材料でも水やお湯で練りあげただけでは細胞膜には到達できません。

決してなじまないものを「水と油」というくらいで、油のあるところには、油しか入っていき、活性酸素や過酸化脂質が悪さをしている肝心の場所にたどり着かなくては役に立たないのです。

そこで、生のごま油から油を搾って油剤化してみました。あまり優れた臨床効果を待たれませんでした。生の胡麻から油を搾るのは非常に容易ですが、焙煎して熱を加え乾燥した胡麻から油を搾りだすのは至難の業です。しかし、特殊な機械を考案した結果、焙煎後の乾いた胡麻から油を抽出することが可能にな

自分でいうのはいさかためらわれますが、それはまさに汗と涙の結晶でした。医師としての超多忙な毎日。その中でこれこそ私に課せられた使命と心得、研究に没頭してきた時間の熱さは、今でも胸の奥底に充実感となつてたゆんでいます。

神は自然の恵みのうちに

すべての良薬を与え給う

神様は人間や動物に何も副作用・薬害のある化学薬品など作らなくても、日常食べている天然の植物、穀物の中に、癌にも成人病にもその他過剰な活性酸素で発生する病気に効くすべてのクスリを与えてくださっているのです。それを人間は、火を使うことを覚えたため、胃液の消化力が退化し、多くの病気に有効な成分を自由に消化吸収できなくなつてしまつた



のです。火を使うことは、今日の人類の文明開化の基礎となつたのですが、胃液の退化を招いただけでなく、さらには薬害の問題を発生させ、農薬・殺虫剤・殺菌剤などが、人体を蝕み出したのです。

今、この汚染された社会を振り返り、真の健康を考え直す必要に迫られています。化学薬害の問題も放置できないところまで来ており、神から与えられた自然の植物、穀物の中に副作用のないすべてのクスリが含まれていることを思うとき、私が考察・開発している方法も、完全に完成されたものとは思いませんが、このような、私の提唱した低分子説の観点より、副作用のない天然の生薬から、完全な効果を有するクスリを開発・完成することを、国を挙げて真剣に取り組む必要があると思います。(丹羽耕三著「神はにたりより」)



後記

丹羽博士の人生をかけた研究と熱意を、生薬の特殊加工法の工程と共に、3回にわたりたどつて参りました。博士の自然回帰論は、便利な生活と引き換えに、我が命を脅かす地球を汚し、体に悪影響を及ぼすものを増やし続けている私たちへのお叱りの声でもあります。

それは、医療面にも波及し、胃には胃薬を、皮膚には塗り薬をし、まるでスリッパをひねつたり、ボタンを押せば、自分の要求が叶つ生活のよこば、病気が治るまで都合よくコントロールできるかのような錯覚が蔓延してきました。しかし、60兆個もの細胞から成る肉體は、どんなに技術が進歩しても、心も体温も持たない機械のように、ネジや半導体で代換できるものではありません。

丹羽免疫療法は、唯一無二の人体に宿る命を守り、生かすには「自然治癒力・自己免疫力」の偉大さ、大切さを心底自覚することである。丹羽博士がどんな圧力にも屈せず、私たちの健やかなる命のために闘って下さつた療法です。

新しい令和の時代、そして、多くの人が100年を生きる時代に、すでに丹羽療法を実践なさつていらっしゃる皆様と共に、この「本当の健康の礎」を、一人でも多くの方々に伝えて行きたく、あらためて皆さまのお力添えを宜しくお願ひ申し上げます。

免疫力促進会(三浦)